

ホッと通信

医療法人鴻池会（平井基陽理事長）は今年三月、奈良県御所市内に全国でも珍しい介護老人保健施設のユニットケア棟をオープンした。「老健は本来、病院を退院した患者が自宅へ戻る自立支援の場」と捉える平井理事長が、短期間での在宅復帰を支援するために建設したもので、その先進的な取り組みが注目されている。

同法人は、一九八二年かたが、同法人のニーズを満ち御所市を中心に地域医療 たしたのはパナホームだけを展開する一方、一九八八 だった。同法人では、二二年に奈良県で最初の介護老 ット棟が入居者に自分の家人保健施設「鴻池荘」建設、 であるように意識させるた高齢者福祉にも力を入れて めに施設色をなくし、明るきた。二〇〇一年にはグル さや広さにとたわるとも一プホームを開設、ユニット に、リハビリを實踐する手ト単位でのケアのノウハウ すりの位置や共有トイレのを蓄積。それを踏まえ て鴻池荘の敷地内にユニットケア棟を建設した。目的は、病院を退院した高齢者が効果的に ADLを向上し、施設から自宅へスムーズに移行できること。そのためリハビリに用いる平行棒は持ち込まず、日常生活を通して自然にリハビリができるよう、溶け込んだ平屋造り。入居うアメニティーの細部まで 率も二〇〇%。入居者は要配慮。トイレも自動洗浄タ 介護1〜4までと幅広いイプではなく、自分で洗浄 が、入居者は自室にこもるレバーを押すようにした。こまかく、思い思いの時間設計はパナホームなどハ をすこしている。

老健に珍しいユニットケア

便座の高さなど細部まで、パナホームに相談。平井理事長も「パナホームさんには当法人の思いを常に設計面に反映してもらい、要望にも前向きに取り組んでもらえたので、満足なプランができました」と話す。

完成したユニットケア棟は、周囲の景観にベッドを有効に活用するためにショートステイの利用、さらに将来的には訪問・通所サービスを加えて小規模多機能型居宅介護サービスも実施したい考え。

同法人では、今後、空き

ウスメーカー四社に依頼し



平井理事長